

18/6/1 名古屋城石垣部会終了後の記者会見(名古屋市民オンブズマン作成メモ)

記者会見 10分くらい

幹事社中日新聞 専門的な話

追加調査が必要ということか

北垣：これまでの発掘調査の内容はまだ一部不十分かな

そんな中での今日であった

従って次回については今日の不足している部分を充足することで

天守台の本質的な価値の意味をきちっと押さえていく

構造物全体をどうしていくか

中日：不足している部分 宮武先生 どういう部分か

宮武：前回までの調査 課題が散漫

出てきたものの集約

3つ目的がある 問題点が整理できた

したがって3つの課題を解決 追加調査が必要だった

懸念 現状の名古屋城の石垣が健康体か

見た目で危ないのは論外 将来的に今の形が担保されているか

論点 首をかしげる部分が見えてきた

お城見学 自分の足下を見ない

堀側の石垣は相当不安定

天守台云々だけ注目されているが、トータルで 堀の外岸は不安定

欲を言えば、天守台どころではなく、北西隅全体

濃尾地震、対象風水害 ダメージ

現在緩み、はらみ 実態を把握せずに放置

不安定状況を把握

中日：現状変更許可申請 石垣内部調査は

同時並行でやってもよいという認識か

宮武：それどころではない

外まわりが危ないので、優先順位の問題が

中日：外部の調査がしっかり出てから

宮武：冒頭でも内部も外部もまとめてやれる

マンパワーがあるのか？結果がこう

下手すると3が2.5

よくよく名古屋市さんは考えて

健康度を把握する

CBC：理解ができなかったが、どこが危ないのか

宮武：外岸が危ない

堀底 未だに見えない

地球のベースを掘って掘りにする

ベースが見えない

それに石垣が乗っかっている

ピンポイントで安定している

ブロックが地盤に

地球上の地盤に支えられていないのは外岸がほとんど

これだけでも安定度が違う

これで終わり

12：21

名古屋市

中日新聞：今の話 石垣部会 所長の感想 今後の手続

西野所長：石垣保全 健全性を調べる

前回もそうだが、堀の外側の危険性 ご指摘頂いた

前回より調査が進んだ 踏まえて追加調査 必要なことを検討

中日新聞：外が終わらないと中に入っていない

5月中文化庁申請が遅れていくのではないかと

西野所長：内面調査 根石や背面を見る

石垣 測量や外さなくてもできる調査を行っている

それを元の中を調べていく

順番云々もある

資料が調って部会の先生に説明してご意見

中日新聞：目標時期は
完成時期が決まっている以上

西野所長：リミットがどこかまで考えていない
木造復元事業と絡めた時に
私は認識したことがない
今が6月 できる限り次回部会で審議頂いて、と考えている

○：石垣部会としては、穴蔵調査

木村：今日の議題に挙げていない

○：次回にあげるのか

木村：整理して

○：天守閣を閉めた理由を聞きたい

西野：現在の天守閣は耐震性が低い
ずっと開くのはやめよう
木造復元事業を進める方針 調査や工事のタイミングで閉めよう
計画で行けば早ければ今年5月に石垣調査で石垣を外す可能性
周知可能性 半年前に発表して閉鎖に至った

○：相当遅れそうだが

西野：私としては資料が内面を調査する資料を整理して、
先生方にご検討していただければ進めていきたい
できるだけはやく

○：遅れているので工期へ影響があるのでは

西野：どこまで遅れれば

○：次の目標は

西野：次回石垣部会を目標 今後日程調整

今月なのか来月なのか

○：今日の石垣部会で穴蔵部分の調査審議をできなかった理由は

木村：以前部会 発掘調査は事前の調査 慎重に慎重を重ねて

今のタイミングでまとめられなかった

○：マンパワーの問題か、調査そのものの困難性か

木村：より慎重を期したとご理解頂きたい

○：外側石垣発掘調査と、内部調査の準備は同じか？

木村：今年は学芸員複数いるので分担

毎日：穴蔵調査 いつからいつまでの予定か

木村：詳細調査 1月～

個別の石、レーダーなど

1月にスタートしている

穴蔵発掘調査はもともとは早ければ5月～3, 4ヶ月

毎日：追加調査 OKがでたら文化庁現状変更調査

終わったら内部調査

すごく遅くなると思うが

木村：先生の指摘もあるが、複数人学芸員いる 平行してやる

毎日：市としては平行してやるのか

木村：予定はそう

CBC：穴蔵石垣調査 10月に文化庁に出す予定か

木村：穴蔵データが必要だと理解
発掘調査以外の非破壊調査を元に提出

CBC：穴蔵調査 10月に間に合わなくてよいか

西野：穴蔵調査を除いたもので出したい
最終的に木造復元には穴蔵調査が必要
申請時には必要ないと考えている

CBC：10月のリミットまでに必要ないということか

西野：はい

○：木造はケーソンの上に置く
石垣調査とどうリンクするのか

西野：石垣をどう保全するかは計画として示す必要がある

○：状態を把握すれば、保全すれば天守が立てられるのではないか

西野：平行して整理していくことができると考えている

○：石垣が片づかないとだめなのか

西野：木造復元事業については2022年12月まで
その後9年間石垣に対して保全措置を執るという計画
石垣について必要だとわかれば、天守復元とともに石垣
計画だと9年間はやっていく
石垣が全部できないと天守

○：帳尻があうのではないか

西野：穴蔵は天守が上に立つ
入る人の安全性
詳細な調査が必要

○：ケーソンの上に天守

一番上を外さないと作れない

石垣は本物 工事の都合で上を積み直している

本物を直す

本物にしていかないと行けない 境目をどうするのかはっきりさせないと

復元検討委員会が判断する

これまで復元検討委員会に対してどんな資料を出してどう言われているのか

天守閣部会 文化庁からの指摘 3点

昭和 34 年建築基準法改正

除外規定は当時からあったはず どういう意味か

木村：昭和 34 年建築基準法 名古屋城が木造化できるのか 適用除外できるのか

○：リストアップされていたのか

木村：リストアップというのは私どもか？

○：建築基準法を元に、

木村：昭和 34 年時点で、名古屋城が木造で建てられるのか確認

○：どういう条文か

もっと前にできた条文ではないか

木村：ごめんなさい

●：昭和 25 年からあった

以前の市街地建築物法

昭和 34 年法改正があって、再現する行為自体が適用除外

それ以前、それ以後できるようになったか調べて欲しい

○：それ以前は

●：文化財なら適用除外だった

○：それについてはどういう見解か

●：法改正の前に現天守ができている

以前は木造天守閣を建てるのは難しかった
博物館 R C, S R C 木造以外しかなかった

○：追加調査は合意したという理解か

木村：そう

○：予算は

木村：名古屋城の事業として
詳細は検討

○：文化庁から

来月提出するのはなにか
10月は何か

木村：来月 石垣の保全を含めた一式
10月はそれまでのまとめ

○：来月は木造復元に関わるのか

西野：名古屋城全体の石垣について

天守台の保全について、状況について調べる
不十分な面がある 対応は今後検討
来月と決まっているわけではない
通常7月頃に復元検討委員会がある
木造復元の基本計画を出そうとしている
石垣、天守台をどういう方向性で行くのかださないといけない
石垣をどうするか
復元検討委員会に出せるように調整したい

○：来月をめざすことに変わりがないのか

名古屋城：ここで切らせて頂く